

徳川實紀資料

五

共十二

特別  
リ5  
3072  
8



3.172  
8子

享保八年



昔より三馬友の中程多き事力及び中程  
申の事力及び中程の事力及び中程の事力及び  
一々安藤守長事力及び中程の事力及び  
馬友事力及び中程の事力及び中程の事力及び  
名初年大隅守事力及び中程の事力及び  
紙面より中程の事力及び中程の事力及び  
一々安藤守長事力及び中程の事力及び  
一々安藤守長事力及び中程の事力及び



此由由事之方解亦達意之詞也  
其由由事之方解亦達意之詞也  
其由由事之方解亦達意之詞也  
其由由事之方解亦達意之詞也  
其由由事之方解亦達意之詞也  
其由由事之方解亦達意之詞也  
其由由事之方解亦達意之詞也  
其由由事之方解亦達意之詞也  
其由由事之方解亦達意之詞也  
其由由事之方解亦達意之詞也

一方系之稀者下如也以此等之  
河漢息而為一薛居州獨如室何  
事之之也又正方之多也今此一  
物也及此也中夜作月是之也其  
且是也故也其也三十八也其也  
水之方也其也安也其也其也其  
以故也水之使也其也其也其也  
一有之也其也其也其也其也其  
一說也其也其也其也其也其也

以後之身の中を身安樂名を奉る事作身  
即之身の上候も無事は是れ何れも重き事用  
可有し候も何れも外方他段候も重き事用  
形の内候も何れも何れも何れも何れも

一 今度候も事用重き事用候も何れも何れも  
何れも何れも何れも何れも何れも何れも  
此世の中候も何れも何れも何れも何れも  
何れも何れも何れも何れも何れも何れも  
何れも何れも何れも何れも何れも何れも  
何れも何れも何れも何れも何れも何れも

何れも何れも何れも何れも何れも何れも  
一 何れも何れも何れも何れも何れも何れも

乙

四月廿二日

〆〆〆〆〆

〆〆〆〆

何れも何れも何れも何れも何れも何れも  
何れも何れも何れも何れも何れも何れも  
何れも何れも何れも何れも何れも何れも  
何れも何れも何れも何れも何れも何れも  
何れも何れも何れも何れも何れも何れも  
何れも何れも何れも何れも何れも何れも

田畑もまた此の如くして行の振りのまはに  
九子入松の如くして種をあつたけにけり  
しるすもまた此の如くして行の振りのまはに  
年計成りては此の如くして行の振りのまはに  
作事しむと見ゆかるとも主馬友に存し  
松子と作出の如くして中をきくも  
至りて然る所の俱者の如く 作出の如く  
九人の如くして外に示すも  
俄此の如くして三人は部  
一は此の如くして

左の如くして

四月九日

孫人好

また代りて

昨共再び此の如くして行の振りのまはに  
しるすもまた此の如くして行の振りのまはに  
早し哉友庄の團明老の如くして行の振りのまはに  
此の如くして行の振りのまはに

四月廿二日

孫人好

また代りて

竹葉青之藥法也  
馬田王經山圖  
心乳書有勝  
乃一國名  
古法書  
乃一國名  
長門  
脚  
多

子存

五月廿

一人相

書

昨日常力  
三万  
井  
其  
五月廿

五月廿

長江舟の程きき山内ゆゑに取道に取替へ奉り  
是より北作ると先づ言ふに取次も中にとし誰  
れ使ふも趣くじつに多かるに甘や力多かるに  
事ありしに亦不意に中取物給ふて馬舎并松の  
小舟舟に取遣はるる是れ取次くじつに取遣はる  
家をもとに舟に御念くじつに取遣はるる  
上へ取遣はるとし出た取遣 相替取遣り三つ  
の御念くじつに取遣はるる御念くじつに  
御念くじつに取遣はるる御念くじつに

五月三

青丸取遣

取遣

今別取遣く子孫取遣けり 其取遣は右國御遣  
又城取遣は御遣言に其方御遣く下  
相替御遣は御遣言に其子孫御遣は其御遣は  
其御遣言に右國御遣は其御遣は及取遣は其御遣  
其御遣言に其御遣は其御遣は其御遣は其御遣は  
八安取遣は其御遣は其御遣は其御遣は其御遣は  
其御遣言に其御遣は其御遣は其御遣は其御遣は

一者、物と言ふ心先かんと先ずしつと

中月九。

青丸を垂す

石丸の種

佐敷五<sup>故</sup>字凡んずるの言野是の園とすとの地種下  
海草と建上軽きとの言と集りて種は本取に  
しと表也、信りて其の事庄に末二万たり也  
百坪中、地味ありて自然に海草と摺射塵御用  
と此米も種言は根は多し、ゆへ紙面は目も多し  
入置し如西なりし七月五日、作後九三園あり

不<sup>三</sup>在生取しむと信りて根取、作後九三園取しむ  
香畑<sup>三</sup>田取しむと信りて根取、思はる方と処事  
作遠らる近き不<sup>三</sup>と<sup>三</sup>信りて根取、作後九三園取しむ  
しむと<sup>三</sup>信りて根取、作後九三園取しむ  
作<sup>三</sup>の<sup>三</sup>以<sup>三</sup>の<sup>三</sup>場<sup>三</sup>取<sup>三</sup>し<sup>三</sup>む<sup>三</sup>と<sup>三</sup>信<sup>三</sup>り<sup>三</sup>て<sup>三</sup>根<sup>三</sup>取<sup>三</sup>、<sup>三</sup>作<sup>三</sup>後<sup>三</sup>九<sup>三</sup>三<sup>三</sup>園<sup>三</sup>取<sup>三</sup>し<sup>三</sup>む  
言<sup>三</sup>成<sup>三</sup>し<sup>三</sup>但<sup>三</sup>中<sup>三</sup>身<sup>三</sup>取<sup>三</sup>し<sup>三</sup>む<sup>三</sup>と<sup>三</sup>信<sup>三</sup>り<sup>三</sup>て<sup>三</sup>根<sup>三</sup>取<sup>三</sup>、<sup>三</sup>作<sup>三</sup>後<sup>三</sup>九<sup>三</sup>三<sup>三</sup>園<sup>三</sup>取<sup>三</sup>し<sup>三</sup>む  
就<sup>三</sup>是<sup>三</sup>法<sup>三</sup>も<sup>三</sup>三<sup>三</sup>信<sup>三</sup>り<sup>三</sup>て<sup>三</sup>根<sup>三</sup>取<sup>三</sup>、<sup>三</sup>作<sup>三</sup>後<sup>三</sup>九<sup>三</sup>三<sup>三</sup>園<sup>三</sup>取<sup>三</sup>し<sup>三</sup>む  
三<sup>三</sup>信<sup>三</sup>り<sup>三</sup>て<sup>三</sup>根<sup>三</sup>取<sup>三</sup>、<sup>三</sup>作<sup>三</sup>後<sup>三</sup>九<sup>三</sup>三<sup>三</sup>園<sup>三</sup>取<sup>三</sup>し<sup>三</sup>む  
宅母<sup>三</sup>取<sup>三</sup>し<sup>三</sup>む<sup>三</sup>と<sup>三</sup>信<sup>三</sup>り<sup>三</sup>て<sup>三</sup>根<sup>三</sup>取<sup>三</sup>、<sup>三</sup>作<sup>三</sup>後<sup>三</sup>九<sup>三</sup>三<sup>三</sup>園<sup>三</sup>取<sup>三</sup>し<sup>三</sup>む

母以命養育の同心母の老後を養育は在り  
しるべきは子の養育に及ぶべきは養育の事  
先生は作の射術を教へて先づ同心安法の子  
情を馬の上より二三人の子を教へて有る  
教へてはるは作の射術を教へて有る  
礼の教へて有る先生は作の射術を  
教へて有る

右は園根子なるは作の射術を教へて有る  
先生は作の射術を教へて有る  
先生は作の射術を教へて有る  
先生は作の射術を教へて有る

五月六日  
養育の事

此は肉の射術 作の射術 先生は作の射術を教へて有る  
先生は作の射術を教へて有る  
先生は作の射術を教へて有る  
先生は作の射術を教へて有る

中乃て来る、極下位之重宝、此作之也、有物凡て女子  
より、汀座より、古園の辨、柳子候を、印にて、不  
下、先方園の辨、印、上書き、此等、手跡、其、印、五三  
の家、にも、達、別、段、有、作、後、目、思、行、数、千  
年、来、其、行、は、宣、下、其、家、中、其、手、跡、以上、證、更、子  
狹、寺、家、辨、は、有、候、也、田、家、の、者、も、山、家、の、者、  
は、後、其、行、と、同、痛、本、之、家、の、印、は、同、く、也、辨、有、  
手、跡、之、の、甚、多、生、分、の、安、子、思、行、其、印、之、也、一、書、行、  
印、後、之、も、一、子、候、也、印、之、印、之、年、後、其、印、は、山、家、の、者、  
也

張、印、は、目、録、之、也、思、行、之、家、の、者、也、其、印、は、宣、  
下、其、行、と、同、痛、本、之、家、の、印、は、同、く、也、辨、有、  
手、跡、之、の、甚、多、生、分、の、安、子、思、行、其、印、之、也、一、書、行、  
印、後、之、も、一、子、候、也、印、之、印、之、年、後、其、印、は、山、家、の、者、  
也、私、作、之、し、は、同、く、也、其、行、と、同、痛、本、之、家、の、印、は、同、く、也、  
也、の、行、汀、座、より、印、之、也、印、之、也、印、之、也、  
印、之、也、外、其、家、の、者、印、之、也、印、之、也、印、之、也、  
印、之、也、印、之、也、印、之、也、印、之、也、印、之、也、  
古、園、の、辨、は、同、く、也、印、之、也、印、之、也、印、之、也、  
張、印、も、古、園、の、辨、之、も、同、く、也、相、行、印、之、也、印、之、也、











是見局とく二三反并あるは人誰と云ふ事  
一書之天格全部と事跡界と云ふ事  
其内之は人々書之は控極三三氏格曰く有則  
口消らざるはあ知の義一なり  
此地之入之は往年より之根之安成多上置  
善之所不書之は思ふ今之入之及び百之幸  
左美引之は山也根有馬三庫也と云は地也  
通之は地也父之は昔之は不之は事也  
然之は難しと云は紙面と云ふ一宙之は事也

御三庫也事去夫と云は地者事不之は事也  
之は徳台と云ふ事也一は父内親父と云は根也  
は置之は事也一は事也一は事也  
一書之は事也一は事也一は事也  
其は信也三席之は由事也一は推也一は事也  
地者事也一は事也一は事也一は事也  
の事也一は事也一は事也一は事也

と云ふ所を以て成し其後を以て成程  
の程を以て成程にして其後を以て  
成程の程を以て成程にして其後を  
以て成程の程を以て成程にして其  
後を以て成程の程を以て成程して  
成程の程を以て成程にして其後を  
以て成程の程を以て成程にして其  
後を以て成程の程を以て成程して  
成程の程を以て成程にして其後を  
以て成程の程を以て成程にして其  
後を以て成程の程を以て成程して

と云ふ所を以て成し其後を以て成程  
の程を以て成程にして其後を以て  
成程の程を以て成程にして其後を  
以て成程の程を以て成程にして其  
後を以て成程の程を以て成程して  
成程の程を以て成程にして其後を  
以て成程の程を以て成程にして其  
後を以て成程の程を以て成程して  
成程の程を以て成程にして其後を  
以て成程の程を以て成程にして其  
後を以て成程の程を以て成程して  
成程の程を以て成程にして其後を  
以て成程の程を以て成程にして其  
後を以て成程の程を以て成程して



一 子孫守御計に城を築くは成りぬとて七人奉り安んず  
横山監務あり村内記今枝民部津田三吉書成内長  
中川或部三先達に法作違ふれ言ふ或部病氣  
多減し但吉を嫡子刑部を名にす城根に法書  
此を己國に法書置出作違ふれ然るに難成極る  
病氣自ら成りし一死計りし事早急傷事平儀  
の時重なる 守御に在るに成りし以てこれに  
隠居しぬ其時國人の事ありし初指入を  
此指違ふに一人の事ありし初指入の事ありし

七人の對面なるは故も名に 義難成り  
且七人の民部津田三吉難成りしとて初  
前田監務あり事有りし事ありし前田監務に井  
あり由記す事ありし民部津田三吉難成り  
元來指入しぬ今記す事ありし初指入の事ありし  
一守御に在るに法書置出作違ふれ言ふ或部病氣  
多減し但吉を嫡子刑部を名にす城根に法書  
此を己國に法書置出作違ふれ然るに難成極る  
病氣自ら成りし一死計りし事早急傷事平儀  
の時重なる 守御に在るに成りし以てこれに  
隠居しぬ其時國人の事ありし初指入を  
此指違ふに一人の事ありし初指入の事ありし

吾物自好行程下... 承俊... 難  
... 依... 由... 病  
... 成... 友  
... 由... 也  
一  
... 相... 肥... 者  
... 日... 三... 部... 集... 甫  
... 上

二月十六日  
一人也

長有書美

南平 公義... 承俊... 難  
... 依... 由... 病  
... 成... 友  
... 由... 也  
一  
... 相... 肥... 者  
... 日... 三... 部... 集... 甫  
... 上

二名依之字を清く山物徳とす

一 今此の神代文形十八九のころの者として千七百  
番堀を築く内分ち四つあり安房守及以下山徳丸  
中東守が右年暮元正礼正初に安房守  
及以下五人一列に大目録自ら持参す即ち同格と  
す事として造り口家も元正其通と有る事之は私  
小所不造事概して初根より不承おす千八百刻書する  
并内分ち安房守が并守千五百刻書する事之は  
御書式として後私近内後在造り時亦全承する

川口は横山同列にお極り安房守松田守は朱建と  
私に依り使の筆意若くはとも有る極りともは犬  
形と表す國時し例に之なる成り安房守の安房守  
會談して之なる身先格違ふこと其ふに成り安房守  
成りとも表すも力時徳昌院松の時違ふ事とも  
三つ安房守及び中東守の事の中東守の中東守  
依り守松守なる内宛りし事及守年古指所も源  
五吉團の七三より安房守の守松守の守松守の守松  
中下方下(山神)の守松守の守松守の守松守の守松  
お副



けりまかふに作し成るものもなる程便よむか  
 けりまかふに作し成るものもなる程便よむか  
 けりまかふに作し成るものもなる程便よむか  
 けりまかふに作し成るものもなる程便よむか  
 けりまかふに作し成るものもなる程便よむか  
 けりまかふに作し成るものもなる程便よむか  
 けりまかふに作し成るものもなる程便よむか  
 けりまかふに作し成るものもなる程便よむか  
 けりまかふに作し成るものもなる程便よむか  
 けりまかふに作し成るものもなる程便よむか

名乗記りのはるす人市跡書改り山出立  
 山形に成聖日ぬ内西由女の山家成りたすあか  
 山形に成聖日ぬ内西由女の山家成りたすあか  
 山形に成聖日ぬ内西由女の山家成りたすあか  
 山形に成聖日ぬ内西由女の山家成りたすあか  
 山形に成聖日ぬ内西由女の山家成りたすあか  
 山形に成聖日ぬ内西由女の山家成りたすあか  
 山形に成聖日ぬ内西由女の山家成りたすあか  
 山形に成聖日ぬ内西由女の山家成りたすあか  
 山形に成聖日ぬ内西由女の山家成りたすあか  
 山形に成聖日ぬ内西由女の山家成りたすあか

二廿七  
 為又

首

世に先生生活と交海并際する大坂の由一書

田舎者方の三庫改めおのり紙の紙の紙の紙

事大坂の信の井成の信の信の信の信の信の信

二一紙の信の信の信の信の信の信の信の信

信の信の信の信の信の信の信の信の信の信

礼遇の信の信の信の信の信の信の信の信

信の信の信の信の信の信の信の信の信の信

相の信の信の信の信の信の信の信の信の信

信の信の信の信の信の信の信の信の信の信

一毛の中の信の信の信の信の信の信の信

信の信の信の信の信の信の信の信の信の信

と存すの者金平ゆゑに幸九萬を成らし候  
事致しし由り申すにゆゑに遊ばせ給ふ事  
可成り候事書紙に申すに申すに申すに申す  
雪傳はし候事申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに

同く申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
指し申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
致し申すに申すに申すに申すに申すに申すに

一 中根権七郎ゆゑに幸九萬を成らし候  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに

一 申すに申すに申すに申すに申すに申すに

三四五... 居布と梅子... 以上... 業由  
庄屋... 皆... 先生... 評  
邪... 又... 体不...  
成...

二月廿六日

青木...

元也...

中...

作... 威... 神... 者... 併... 又... 今... 人... 其...

此結構成於予之今日之信之信之信之人は多  
有りと也予は少なり成るも其言を以て進んで  
之を以て其本神を以て其本神を以て其本神を  
自に神成りて其本神を以て其本神を以て其本神を  
其本神を以て其本神を以て其本神を以て其本神を  
有し持たし人各別にして有る事ありて其本神を  
以て

二月廿七

拾子

拾子見 拾子

此言神同氣之理存心外の中を以て其本神を  
各別にして有る事ありて其本神を以て其本神を  
以て其本神を以て其本神を以て其本神を

此言神同氣之理存心外の中を以て其本神を  
各別にして有る事ありて其本神を以て其本神を  
以て其本神を以て其本神を以て其本神を

少将中江上意は此の由なるに聞かぬに依て  
一 玄甘の反或然と納めり管するは谷中  
病人なるに目より病は亦在難納らるるに  
汝の事も成すべし

一 先子より少将中江と申す事なるに根を  
取言はれしなり先子より少将中江に  
是れ弟を用事相許し居候後しり成す事達  
上聞の内なるに先子を用事しり成す事  
七月三

青木友吉

為人

先日房のりし言ふ事作事のみ私にのみ苦く  
之類有る者も何れも一に但し子に人  
くと此の事にも公許相許し居候に  
先程の言も先子を用事しり成す事  
先子を用事しり成す事  
自れに成す事にも金匠の事にも  
一に此の事にも金匠の事にも  
此の事にも金匠の事にも

云々言ふは拙く好むるは所なきに成るべし  
此等力あるは之を即し事なきに成るべし  
如し事なきに成るは相違なきに成るべし  
此等情初は之は正しく成るべし  
後等情も亦 拙く好む者なきに成るべし  
拙く好む者なきに成るは相違なきに成るべし  
此等情初は之は正しく成るべし  
後等情も亦 拙く好む者なきに成るべし  
拙く好む者なきに成るは相違なきに成るべし  
此等情初は之は正しく成るべし  
後等情も亦 拙く好む者なきに成るべし

は然る事、先達よりしるすに、  
有る者多し、氣も毒も好む者多し、  
者しと思ふに、  
有る者多し、  
中にも、

七月三日

青柳堂主人

三橋大坂

波平書而七成以後自是弟の仁者有る也  
水野

撰改之致と云々先生此作と云々も個々上若  
多々書簡今當之処年多自姓名之也切上成泉あり  
より由泉御封の外味却る事其未の上向  
少者之只一儒者多事人より改之成はる事其  
風説多先生の物徳之を右も也私之程母友  
存存之処之計は後世に成る事は何れや  
之氣味之也私方之存之くは何れ少事  
之方之存之くは元長と海峯と直之事也  
誅自せられものも此作七月下つこの西物徳也

此書八月業抄に傳へられたる由  
三庫及之の事也中書省有之祥符元祀  
有之自私之也此作は元長之三五歳後  
日本幸之と云々此作は元長之三五歳後

九月八日

禮幹

八月十日難氣之河内府野を爲成列也  
右美夫  
有之自私之也此作は元長之三五歳後  
日本幸之と云々此作は元長之三五歳後

此書は遠く市川右上方山信海の若年より大久保長門屋  
 相違の長門守長政の御免の一封紙面抄とす。 抄  
 行信此書先紙面抄の如きものなり。 抄の如し  
 墨澤上人の信を承りて市川右上方に送り 作里伊佐  
 多の書方御信止とす。 雅現傳の業師大法  
 其の細工の如く有るものなり。 抄の如く  
 抄より見るに八好事、宗業の如く是れ中央寺に  
 不存なり。 此は信海の如く有るなり。 抄の如く  
 作里方の事なり。 是の如く信海の如く八好事とす。

雅現傳の業師大法の成徳寺の如く  
 常の如く信海の如く有るなり。 抄の如く  
 其の信 上流信の如く有るなり。 抄の如く  
 印大信の如く有るなり。 抄の如く  
 作里の如く有るなり。 抄の如く  
 作里 上流信の如く有るなり。 抄の如く  
 印大信の如く有るなり。 抄の如く  
 作里の如く有るなり。 抄の如く  
 作里の如く有るなり。 抄の如く

指信より成今年之指信より成  
人々之指信より成今年之指信より成  
指信より成

十月六日

禮幹

指信より成今年之指信より成  
人々之指信より成今年之指信より成  
指信より成

一  
指信より成今年之指信より成  
人々之指信より成今年之指信より成  
指信より成

振舞も後仁と申す也  
 形亦其之と云ふる金力  
 此年之書九才一匹  
 一尺也  
 此の書大式と  
 有しと云ふ一尺也  
 先以左圖封書  
 事大式一尺也

此は左の書大式  
 此後不後私方一  
 此日以大式方私  
 頼る氣ふ也  
 此の書大式一尺  
 此の書大式一尺  
 此の書大式一尺  
 此の書大式一尺

好むは先づ先づ見下りし先づ先づ  
夏先年 常憲後梅江に於て其の結句の時  
山字文より山字文と成りて是よりして折はるる  
何とて字文を成れりては名をさるる右者又今又  
象をさるる是より山字文と成りては山字文  
折よりして折はるる象をさるる  
入るも有るる言えりては折はるる象をさるる  
其の有るる象をさるる申せ又其の有るる象をさるる  
折はるる象をさるる象をさるる象をさるる象をさるる

御家御姻家より別と残念よりして其の象をさるる  
子と存せりては折はるる象をさるる象をさるる

十月九日

宗義親

宗義親

此よりして五月廿一日御家御姻家より別と残念よりして其の象をさるる  
中より報知よりして折はるる象をさるる象をさるる  
且其の安懐はるる象をさるる象をさるる象をさるる  
因りて折はるる象をさるる象をさるる象をさるる  
象をさるる象をさるる象をさるる象をさるる象をさるる

之於世也其亦西事也其春之之法曰於世也...  
 有之五六人親教於山強...  
 遺放也 伊日親教於山強...  
 事之子女者之氣...  
 似言... 別之水也...  
 中則之... 祖廣...  
 先之... 廟...  
 別... 廟...  
 先... 廟...

而年... 先...  
 少... 先...  
 知... 先...  
 前... 先...  
 志... 先...  
 物... 先...  
 名... 先...  
 教... 先...

妻、中山守則之厚也。先子、其家方歸、其戚也。其  
と、少くも例も、事に感、厚家、其、中、縁、組、右  
内、記、其、終、り、亦、お、遺、之、義、も、右、家、業、の、記、に、伊、郎  
水、の、と、映、り、い、え、之、難、言、を、存、ら、し、具、右、歌、に、見  
都、下、人、と、業、内、の、方、と、苗、と、也、者、  
り、由、事、の、違、い、し、も、存、水、を、感、て、伊、郎、  
馬、こ、し、よ、の、い、ふ、右、家、業、に、終、り、の、い、は、し、も、終、  
二、者、し、も、多、金、成、有、と、聞、く、い、は、し、も、し、も、  
流、し、事、も、あ、く、し、公、後、其、作、上、馬、存、と、終、

不、并、成、成、と、り、時、の、安、積、儀、也、其、人、の、終、り、難  
義、出、来、と、い、は、笑、共、成、る、と、い、は、存、也、先、之、三、郎、の、  
事、傳、り、若、し、宣、流、の、後、追、有、終、局、に、此、去、海、西、  
及、し、左、邊、の、所、に、事、々、と、由、来、也、此、也、  
去、人、の、傳、り、の、移、存、し、世、と、も、存、也、  
及、私、印、卷、の、不、成、り、私、侍、儀、と、首、尾、の、間、に、成、友  
と、い、思、は、し、も、存、有、指、白、事、あり、留、門、用、由  
由、有、馬、の、三、郎、乃、存、也、事、々、城、は、此、仁、義、禮、  
智、信、の、五、字、と、題、也、宣、流、の、私、之、の、事、は、及、之、終、

解レ物ハはレ其レ庫ノ及レ其レ推出之ヲ存ス  
之ヲ先ニ考ス其レ強弱之ヲ考ス其レ定之堂上方ノ出  
ノ物ヲ考ス其レ有レ之ヲ考ス其レ成之中ノ物ヲ考ス  
其レ中ノ物ヲ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ  
各其所ノ有レ之ヲ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ  
以テ其レ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ  
常ニ行フ其レ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ  
之ヲ私ニ考ス其レ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ  
其レ考ス其レ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ

仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ  
其レ考ス其レ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ  
免レ用之考ス其レ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ  
自レ觀之考ス其レ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ  
之ヲ私ニ考ス其レ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ  
古来之考其レ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ  
其レ考ス其レ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ  
其レ考ス其レ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ  
其レ考ス其レ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ  
其レ考ス其レ考ス其レ仁義智之考ス其レ成之中ノ物ヲ





不存する私欲を存するから道理が立ちくから中を除  
く。非成り非成り存するから子に信する義理は論  
明ははらひなり。道理と見たり。是は非成り私欲  
を去りて存する非成りなり。先大徳者子陽有るも  
善徳を以て存する。非成りなり。非成りなり。  
はるも勿切を以て。非成りなり。非成りなり。  
國家の事や受て。非成りなり。非成りなり。  
非成りなり。非成りなり。非成りなり。非成りなり。

下して存する。非成りなり。非成りなり。非成りなり。  
民の事や受て。非成りなり。非成りなり。非成りなり。  
非成りなり。非成りなり。非成りなり。非成りなり。  
非成りなり。非成りなり。非成りなり。非成りなり。

一 是を前侍論の時節の國亡りて事と存相の節  
父老の存する節の節の節の節の節の節の節の節の節  
存する節の節の節の節の節の節の節の節の節の節の節  
善を以て用いる事不能愛を以て用いる事

不徒九ならしし事と世不と違し時分移りて  
 世一も七兼名人に言にことと成者ことと  
 一必意味有し物に方こそ事建し成り世  
 一傳の  
 大敵は極付存し事にも方多と用し  
 事一月調をせぬことと事なる辭を調し  
 ころとやことと事なる却る者ことと事  
 ころとことと事なる誰りことと油のことと世は上より  
 一用しことと誰りことと油のことと世は上より  
 権柄こととせしことと事なることと事なることと事なる

不調法とはまことと事なる伊皇寺法法言とは事なる急用  
 ころ辭ことと事なることと事なることと事なることと事なる  
 早急調しことと事なることと事なることと事なることと事なる  
 寢し悲れ調中ことと事なることと事なることと事なることと事なる  
 し浪り事なる事なることと事なることと事なることと事なることと事なる  
 ことと事なる事なることと事なることと事なることと事なることと事なる  
 事なることと事なることと事なることと事なることと事なることと事なる  
 ことと事なることと事なることと事なることと事なることと事なることと事なる  
 ことと事なることと事なることと事なることと事なることと事なることと事なる  
 ことと事なることと事なることと事なることと事なることと事なることと事なる  
 ことと事なることと事なることと事なることと事なることと事なることと事なる  
 ことと事なることと事なることと事なることと事なることと事なることと事なる



事は行はれども三代の徳に上る威光  
一しく并成す遠くは我権之人の自出と威勢  
ありし中なる人々より多く上りて  
たれしとありし徳に上りて物有る有るは  
其れ日々に國政更りて終に衰乱の  
事ありしとありし徳に上りて物有る有るは  
成りし中なる人々より多く上りて  
山南に成る事ありし事有るは中なる  
事ありしとありし徳に上りて物有る有るは

ありしとありし徳に上りて物有る有るは  
事ありしとありし徳に上りて物有る有るは  
権草絶てし事ありしとありし徳に上りて物有る有るは  
事ありしとありし徳に上りて物有る有るは  
魏微ありしとありし徳に上りて物有る有るは  
諸役人の其職を子に引受りて始終を考りてお妙  
一は一旦の料管をその難事の國に示す徳に上り  
見し徳に上りて物有る有るは  
徳に上りて物有る有るは



中へ達しぬ右古峯江門有後者持上しりまは  
久保市右へしし自身はあはれはしし  
何とてしし者なるは若くは若くは若くは  
浮元と申由緒有し流元由元早達浮元  
知らせ其我族之人はしし  
しし物なるしし事なり成る用自力  
三々又人の上りし事なりしし  
しし事なりしし事なりしし  
しし事なりしし事なりしし

古峯江門有後者持上しりまは  
中へ達しぬ右古峯江門有後者持上しりまは  
久保市右へしし自身はあはれはしし  
何とてしし者なるは若くは若くは若くは  
浮元と申由緒有し流元由元早達浮元  
知らせ其我族之人はしし  
しし物なるしし事なりしし  
三々又人の上りし事なりしし  
しし事なりしし事なりしし  
しし事なりしし事なりしし

十月廿

室新島





この世に生まるるは一人の心にて世の中を治す事なり  
此世に治す事なり事通して世に成る事なり  
事と思ふ事なり事なり事なり事なり事なり  
種多海戸山開成私物也世に成る事なり事なり侍  
海ありし先皇論信子路衣敷纏袍事なり  
海ありし由海ありし事なり事なり海ありし事なり入  
事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり  
方なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり  
事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり  
事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり

大在園より發書は十八日也大に事なり  
宣徳院より事なり事なり事なり事なり事なり事なり  
君に事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり  
事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり

青月夜

室新印

大在園

今日より海使下向物別事なり事なり事なり  
事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり  
事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり  
事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり

此處陸君之言也 上唐之政下義之德也 加  
 賀之事 在國之也 義之也 惟之也 中 救 亦 為 先  
 均 事 長 府 之 也 先 之 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 國 也 事 之 也 中 也 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先

一  
 上 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先

一  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先  
 均 事 之 也 附 之 也 亦 為 先 均 也 事 之 也 附 之 也 亦 為 先

尋し事候下り出給 作の嫁にまゝ入世を  
事におのりし事候下り出給 作の嫁にまゝ入世を  
此の作

一 友野丸の團圓海軍に在り能く多しは其の伴佛堂に  
此の書交部... 此の書交部... 此の書交部...  
事の難成程事も其に海軍に床元子物  
... 此の書交部... 此の書交部...  
人画子に例し海門運子引居お又新造しは海軍  
像に泥水投入し御との書... 此の書交部...

大臣の書有... 此の書交部... 此の書交部...  
思召し由此の書交部... 此の書交部...  
花寄又... 此の書交部... 此の書交部...  
... 此の書交部... 此の書交部...

一 事多に事多し事多し事多し事多し事多し事多し  
有し事多し事多し事多し事多し事多し事多し  
三萬五千石... 此の書交部... 此の書交部...  
目上上の書交部... 此の書交部... 此の書交部...  
此の書交部... 此の書交部... 此の書交部...

梅月八日

為人極

青叔書

昔野之園事也作也先以野中亦多存  
以以爲海運也。是以平生常產之。或亦  
細其存也。然亦事之。因我不持之。法印  
建之。常產之事。亦不事。有之。是亦  
是。右田也。好之。一。有之。或似備  
之。或似備之。由中。以居。成之。或似  
何也。然亦事之。因中。由是。亦不事  
之。

是。野之園事也。作也。先以野中亦多存  
以以爲海運也。是以平生常產之。或亦  
細其存也。然亦事之。因我不持之。法印  
建之。常產之事。亦不事。有之。是亦  
是。右田也。好之。一。有之。或似備  
之。或似備之。由中。以居。成之。或似  
何也。然亦事之。因中。由是。亦不事  
之。

音

家新

多

某年九月

日外... 老直... 何事... 始... 神...

とて... 推量... 私方... 其... 乃... 勇... 不... 在...





右の如銘に指上るる有りて諸姑も入りし毎度

印金成り上得之不承事為後天指之云々外之於中并何國以  
已至事待之ハ物指國傳也也云々ハハ自母之云々也

津島指上候何國事ハ遠流承事院以事ハ母云々

云々指上る物以事ハ一不云々其云々其印親御中

何國事ハ致一云々云々何國事ハ金云々

致付用と者云々本報ハ此云々上田川遠云々也

有し云々指上る事ハ謝状も入りしハ村文

陣之云々あり云々云々指上る事ハ其

云々云々願氣感行し云々云々云々

家辨等志云々 作月方為也云々作夜も母ハ此

指上る私方之密事ハ封指付也云々首尾云々云々

印上る事ハ母云々 作月上其事云々

云々恨云々義助云々在云々云々私語云々越右

指付内ハハ改務云々事ハ一旦又存之所云々也

向の段務云々此ハ不存云々云々云々

云々云々見云々ハハ日蔭余原虎物傳云々云々

陣之云々所云々事ハ美入事云々云々

云々云々何國事ハハハハハ母子事云々

廿歲

以爲三綱之遠鏡、  
人女之、  
子好、  
嗟嘆、  
迎西、  
止、  
押、  
系、

何、  
口、  
矢、  
情、

一、  
管、  
子、  
右、  
致、

銚と 上流とある程其の勢は清波若くは雲の如  
西上不成由得之所云云 傳馬の事云々 一ノ巻  
園尉及用人の件より考へ得る程に在園尉及  
成り加へ申す一は根云々の事云々  
書引離し其の事云々 一ノ巻 一ノ巻  
是より三巻の事云々 一ノ巻 一ノ巻  
口は其の事云々 一ノ巻 一ノ巻

甲申  
長安の人

高野の事

御辨位題書之事 其の事云々 一ノ巻 一ノ巻  
秋の事云々 成り加へ申す 一ノ巻 一ノ巻  
多々の事云々 御辨位題書之事 一ノ巻 一ノ巻  
一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻  
成り加へ申す 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻  
一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻  
其の事云々 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻  
首題 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻  
一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻 一ノ巻





書有卷九所屬權中好位三居有身事藏

一 知人下出等所出所及者位事

高少と先より一武山も氣成るとも三居

叙せられし一親模<sub>二</sub>出<sub>一</sub>の義も<sub>二</sub>は<sub>一</sub>況<sub>二</sub>情<sub>一</sub>

可し三居<sub>二</sub>不<sub>一</sub>事<sub>二</sub>因<sub>一</sub>の<sub>二</sub>訓<sub>一</sub>の<sub>二</sub>誥<sub>一</sub>誨成<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事

然<sub>二</sub>先<sub>一</sub>事<sub>二</sub>中<sub>一</sub>の<sub>二</sub>好<sub>一</sub>の<sub>二</sub>事<sub>一</sub>事<sub>二</sub>不<sub>一</sub>事<sub>二</sub>也<sub>一</sub>也

一 肥前大守の<sub>二</sub>日<sub>一</sub>有<sub>二</sub>事<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事

一 成<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事

如<sub>二</sub>聖<sub>一</sub>院<sub>二</sub>為<sub>一</sub>位<sub>三</sub>三居<sub>二</sub>先<sub>一</sub>事<sub>二</sub>中<sub>一</sub>の<sub>二</sub>好<sub>一</sub>の<sub>二</sub>事<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事

大居士又信者云は云く<sub>二</sub>海<sub>一</sub>は<sub>二</sub>可<sub>一</sub>

如<sub>二</sub>中<sub>一</sub>後<sub>二</sub>所<sub>一</sub>故<sub>二</sub>為<sub>一</sub>位<sub>三</sub>三居<sub>二</sub>先<sub>一</sub>事<sub>二</sub>中<sub>一</sub>の<sub>二</sub>好<sub>一</sub>の<sub>二</sub>事<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事

沈<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事

初<sub>二</sub>之<sub>一</sub>字<sub>二</sub>と<sub>一</sub>也<sub>二</sub>一<sub>一</sub>例<sub>二</sub>と<sub>一</sub>也<sub>二</sub>且<sub>二</sub>武<sub>一</sub>藏<sub>二</sub>念<sub>一</sub>と<sub>二</sub>あ<sub>一</sub>ん<sub>二</sub>し<sub>一</sub>

一 印<sub>二</sub>字<sub>一</sub>名<sub>二</sub>且<sub>一</sub>又<sub>二</sub>芳<sub>一</sub>事<sub>二</sub>と<sub>一</sub>事<sub>二</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事

自<sub>二</sub>印<sub>一</sub>字<sub>二</sub>と<sub>一</sub>也<sub>二</sub>一<sub>一</sub>例<sub>二</sub>と<sub>一</sub>也<sub>二</sub>且<sub>二</sub>武<sub>一</sub>藏<sub>二</sub>念<sub>一</sub>と<sub>二</sub>あ<sub>一</sub>ん<sub>二</sub>し<sub>一</sub>

姓<sub>二</sub>名<sub>一</sub>字<sub>二</sub>と<sub>一</sub>也<sub>二</sub>一<sub>一</sub>例<sub>二</sub>と<sub>一</sub>也<sub>二</sub>且<sub>二</sub>武<sub>一</sub>藏<sub>二</sub>念<sub>一</sub>と<sub>二</sub>あ<sub>一</sub>ん<sub>二</sub>し<sub>一</sub>

此<sub>二</sub>位<sub>一</sub>印<sub>二</sub>字<sub>二</sub>と<sub>一</sub>也<sub>二</sub>一<sub>一</sub>例<sub>二</sub>と<sub>一</sub>也<sub>二</sub>且<sub>二</sub>武<sub>一</sub>藏<sub>二</sub>念<sub>一</sub>と<sub>二</sub>あ<sub>一</sub>ん<sub>二</sub>し<sub>一</sub>

此<sub>二</sub>事<sub>一</sub>の<sub>二</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事<sub>二</sub>の<sub>一</sub>事

一 神儀と有るは、及、俗家、素、例、ま、く、其、道、に、成  
 二、此、の、一、者、に、信、解、は、定、信、好、名、等、に、神、と  
 三、わ、り、若、し、は、唯、今、神、と、わ、り、一、は、俗、家、に  
 四、信、解、が、い、く、ま、の、お、神、に、い、く、ま、の、信、解、に、あ、る、に、成  
 五、二、者、と、い、は、れ、同、一、な、ら、ば、神、信、は、い、く、ま、の、信、解  
 六、に、あ、る、は、俗、家、に、い、く、ま、の、信、解、に、あ、る、に、成、  
 七、例、に、い、く、ま、の、信、解、に、あ、る、に、成、  
 八、後、雅、有、る、は、俗、家、  
 九、の、

百六

宗新也

事多富書校

一 山、年、後、神、お、く、ま、の、由、に、あ、る、は、若、し、素、素、神、の、信、  
 二、は、山、神、に、成、信、ま、り、の、神、に、重、の、信、に、成、  
 三、の、書、に、い、く、ま、の、信、解、に、あ、る、に、成、  
 四、の、書、に、い、く、ま、の、信、解、に、あ、る、に、成、

一 一、此、に、信、三、の、ま、の、信、ま、り、又、肥、前、寺、に、信、ま、り、  
 二、其、例、に、い、く、ま、の、信、解、に、あ、る、に、成、  
 三、不、の、信、解、に、あ、る、に、成、  
 四、の、書、に、い、く、ま、の、信、解、に、あ、る、に、成、  
 五、外、有、る、は、俗、家、に、い、く、ま、の、信、解、に、あ、る、に、成、  
 六、と、い、く、ま、の、信、解、に、あ、る、に、成、







二河丸中修成を二河の附一京中奉初皆  
おまへしきま固之り長てくまらる事下り

一 山田大助は厚徳を後出 作月北の付る在成り

藤生甚るる指靴を愛しぬれはのりし師事し

中守る多由物儀と考へはいふ成りきり難し

先以侍儀と云ふ大助は平次助と云ふは其後

道ありし 河田守の存ありしし清く直

典の存ありしし序に古存ありしし

学文し廿二大書は成り事し 士は内蔵に事し

風俗移りし 自選と悪人の月成り下り馬子

才し善き中守の典は徳者たる事余儀し

人なればその徳ありし 事し年々其徳を傳文

是より存しは其徳ありし 世に為りし事し

子より存しは其徳ありし 事し年々其徳を傳文

唯より存しは其徳ありし 事し年々其徳を傳文

可し 河田守の存ありし 事し年々其徳を傳文

し 其徳を先達より傳ありし 事し年々其徳を傳文

是を其徳を先達より傳ありし 事し年々其徳を傳文

且承得し法言師教を以て先達比古好ましく  
定るは風成字問は田舎に成るに好ましく  
心中後快かきて入る。又度世通下る後  
只此の法成流に夫のまじりては行は流  
用度更に通鑑獨自時々して通鑑の結句由以  
所〜口弁りて三年の事なり

一 後方新年以て及後抄筆の書成す。世々も  
多矣〜也。越以て又九坂の林迄来て〜の  
元九坂抄筆より今この通鑑は〜  
〜書成すこと好ましく洋〜の〜

不空私書

多々の事及抄筆も打第抄るる病中抄筆も  
我々が前對面不致せし忠言を以て右の書成す  
上にて對面より〜九坂の〜  
私にこの侍儀は〜私私成る 上にて  
〜半押す〜  
心成る〜とある〜  
〜とある〜  
〜とある〜  
〜とある〜  
〜とある〜









侍る事一十年の事也成りては只此の事  
方子と通じ家<sup>ミヤ</sup>の籍<sup>ミヤ</sup>者<sup>ミヤ</sup>と存<sup>ミヤ</sup>し<sup>ミヤ</sup>在<sup>ミヤ</sup>根<sup>ミヤ</sup>存<sup>ミヤ</sup>  
此<sup>ミヤ</sup>方<sup>ミヤ</sup>梅<sup>ミヤ</sup>と<sup>ミヤ</sup>言<sup>ミヤ</sup>ふ<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>と<sup>ミヤ</sup>相<sup>ミヤ</sup>此<sup>ミヤ</sup>方<sup>ミヤ</sup>存<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>  
と<sup>ミヤ</sup>思<sup>ミヤ</sup>ふ<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>と<sup>ミヤ</sup>言<sup>ミヤ</sup>ふ<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>  
梅<sup>ミヤ</sup>子<sup>ミヤ</sup>の<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>と<sup>ミヤ</sup>言<sup>ミヤ</sup>ふ<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>  
然<sup>ミヤ</sup>不<sup>ミヤ</sup>上<sup>ミヤ</sup>の<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>  
為<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>の<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>  
三<sup>ミヤ</sup>解<sup>ミヤ</sup>有<sup>ミヤ</sup>て<sup>ミヤ</sup>後<sup>ミヤ</sup>夜<sup>ミヤ</sup>の<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>  
何<sup>ミヤ</sup>の<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>  
一<sup>ミヤ</sup>生<sup>ミヤ</sup>

耕種<sup>ミヤ</sup>之<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>  
上<sup>ミヤ</sup>の<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>  
又<sup>ミヤ</sup>は<sup>ミヤ</sup>指<sup>ミヤ</sup>指<sup>ミヤ</sup>する<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>  
此<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>  
禁<sup>ミヤ</sup>控<sup>ミヤ</sup>の<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>  
控<sup>ミヤ</sup>の<sup>ミヤ</sup>事<sup>ミヤ</sup>也<sup>ミヤ</sup>

指和并何一者三十一者其  
指和并何一者三十一者其  
指和并何一者三十一者其  
指和并何一者三十一者其  
指和并何一者三十一者其

一七志  
一七志  
一七志  
一七志  
一七志

五月五

寺藏

寺藏  
寺藏  
寺藏  
寺藏

寺藏  
寺藏  
寺藏  
寺藏



或曰僕より名好子美の如く山を以て早生  
之に似たり中程より此は行成程に入道の間也  
と此今朝の事あり在るは後好子美より上は  
愛の中程城好子美の思ひより及ぶ物也  
如月より十日若し若し年去るに三  
可也書者奉書  
事未申上中程城好子美水野和子  
張中程の思ひより今更思ひ程  
程々今好子美一人思ひより成る  
事未申上中程城好子美の思ひより  
思ひより今好子美一人思ひより成る

春の柳河側より春の思ひ問揚南は極上  
思ひより今好子美一人思ひより成る  
思ひより今好子美一人思ひより成る  
思ひより今好子美一人思ひより成る  
思ひより今好子美一人思ひより成る  
思ひより今好子美一人思ひより成る  
思ひより今好子美一人思ひより成る  
思ひより今好子美一人思ひより成る  
思ひより今好子美一人思ひより成る  
思ひより今好子美一人思ひより成る

三月十三日

春の柳河側より

病入相

於以先主山後科抄多儀之今三十一等之因也  
也金邊之三年拾七等也西一管之自山家集

山家集部之 八等七等也西一拾七等也

一所日敷阿瓦之等之友之後始之修之始之  
山家集之山家集之山家集之山家集之山家集之  
山家集之山家集之山家集之山家集之山家集之  
山家集之山家集之山家集之山家集之山家集之  
山家集之山家集之山家集之山家集之山家集之

男者一竹原之卯用事有之山家集は後

谷原等之山家集の山家集の山家集の山家集の山家集の

之其外也平元和守也山家集の山家集の山家集の

山家集の山家集の山家集の山家集の山家集の山家集の

山家集の山家集の山家集の山家集の山家集の山家集の

山家集の山家集の山家集の山家集の山家集の山家集の

山家集の山家集の山家集の山家集の山家集の山家集の

山家集の山家集の山家集の山家集の山家集の山家集の

山家集の山家集の山家集の山家集の山家集の山家集の

生質をち見せし

一

一 師匠の言に依りて、實に空なる又のあとの女抱

ふふの神威に依りて、誥不し、天火新有る、此は

口部の言に依りて、天火新有る、此は氣の志を成る、此は各別の徳

と有る由と作

一

一 口部の言に依りて、天火新有る、此は氣の志を成る、此は各別の徳

見よ、此は天火新有る、此は氣の志を成る、此は各別の徳

二月廿三日

青木玄冬

長久保



